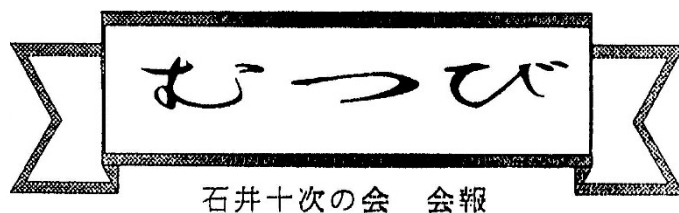


2020年
(令和2年)
6月12日



273号

石井十次の会活動と理想郷づくり

石井十次の会

会長 橋田 和実

令和2年となり、季節の移り変わりも早いもので、もう初夏となりました。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年はコロナウィルス感染対策のため、本会総会は中止とさせて頂きました。三役会と代表役員会のみを行い、令和元年度活動、決算報告そして令和2年度事業計画、予算の承認をして頂きました。皆様方のご協力とご支援により令和元年度も充実した活動を行うとともに、良好な決算で締めくくることができました。それらの結果を皆様方には別紙にてご報告させていただきます。友愛社卒園生に対する卒園祝金を贈呈するとともに給付型奨学金も1名に差し上げました。今年度、奨学生は2名になります。有難いことに会費納入と併せて石井十次の会と奨学金基金に対してたくさんの方々からご寄付を賜り、充実した活動に大変寄与していただいております。また、毎月発行しています会報「むつび」の編集も一段と充実してきており、委員長を先頭に5名の編集委員の皆様が活発な活動をしておられます。尚、昨年ご協力を賜りました署名活動にも会員の皆様の多大なお力添えの結果、たくさんの署名人数が得られました。この場をお借りし、お礼申し上げます。今後も引き続きご協力をお願い致します。

今年に入って世界中が新型コロナウイルス禍で大変な状況に陥っています。全国民がその対策に取り組んでいますが、特に大都市および周辺の地域において会員の皆様はご苦労されていると拝察致します。

石井十次は明治時代、都市化が進む岡山市から自然豊かな宮崎県茶臼原台地へ孤児院を移転することを考え、約230ヘクタールもの荒地を開墾し、福祉の理想郷づくりに邁進しました。十次は大自然の中で労作（農作業等）を通して、子どもたちを養育することが一番良いと考えました。その精神を受け継いだ現在の石井記念友愛社では自然豊かな各施設で、子どもたちが集団生活をしております。そこで労作に励みながら、職員や地域の皆さんの惜しみない愛情をいた

だき、良き出会いを得て、すばらしい志を抱いて立派に成長し、社会へ巣立っています。

今回の新型コロナウイルス禍は人類に対して、警鐘を鳴らしているような気がしてなりません。我々人間は自然を大切に、共生していくべきと考えます。そして、利便性やモノの豊かさを求めるだけでなく、心の豊かさを取り戻すことが必要だと思います。今の新型コロナウイルス禍を契機として、我々が今後生活していく社会構造を変え、日本全体を住みよくしていこうではありませんか。不便で豊かさもない100年以上前の明治時代に石井十次が考え、実現しようとした茶臼原台地の理想郷はそれらのことを示唆していると思います。

今後の石井十次の会の活動も石井十次が考えた福祉の理想郷づくりを目指して、茶臼原台地で農業と福祉の連携、具体的に言えば、自然豊かな環境で児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉と農業とを結びつける場を作っていくことはいかがでしょうか。そのことが癒しと健康づくり、会員相互の交流の場となればよいのではないかと考えております。すなわち農福連携事業を進めていくこともひとつの方策だと思います。その点について会員の皆様の前向きなご意見をいただければ幸いです。

最後に皆様のご健康とご活躍を祈念し、本会にご協力、ご支援いただいていることへの感謝を申し上げ、末筆とさせていただきます。



友愛社農園



友愛社正門

「のゆり保育園」 認定こども園として新たなスタート

既にご案内されております「のゆり保育園」(橋本佳代子園長60人)が、幼保連携型石井記念のゆり幼児園として名称を変更。場所も移転し、4月1日から運営されています。

どのような所か「新型コロナウイルス感染症」に気を付けながら訪ねました。

移転先は、宮崎県児湯郡木城町中原地区の県道312号線中原信号機交差点から友愛園方面に行き途中の小高い広場の一角です。園舎の隣には、芝生広場・既設の子供たちのプールもあり、旧園舎・友愛園・茶臼原台地方面も望まれる素晴らしい光景を呈しています。この周辺は、十次が開墾して院児たちに生活の場を提供した所でもあり、友愛園もすぐそばにあり友愛社と事務連絡等もスムーズに出来る状況にあります。園舎の風景は、ゆうあい通信3月号に完成前の写真がありますが、現在は3名の方から寄贈された大きな「鯉のぼり」が取り付けられている2階建ての園舎、2階への大きな



【石井記念のゆり幼児園玄関】

参考までに認定こども園とは、簡単に言えば保育園の「保育」と幼稚園の「教育」を対象者を限定せずに同じ施設でやってしまうものです。

保護者の就労の有無にかかわらず入園することができますので、友愛園の幼児さんたちも通うことができるようになり長年の宿願がようやく叶います。

2階から友愛園のとんがり帽子の園舎(三友館)が西方に見えます。

猛威を振るうコロナウイルスには困ったものですね。抵抗力のない園児に携わる職員、関係者は気が抜けないでしょう。もう少しの辛抱と思います。

のゆり幼児園をはじめ各保育園の職員の健闘方お願い致します。

編集委員 生駒 亮



【石井記念のゆり幼園全景色景】

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

- 【宮崎市】長友 勉
- 【延岡市】深見 紀葉
- 【西都市】橋口 久徳
- 【高鍋町】豊田 佳子 黒木 カツヨ
- 【木城町】恵利 修二
- 【綾 町】重永 昌信

★ご寄付をいただきました（敬称略） （一般）

- 【宮崎市】河野 智明 深見 幸子 永吉 洋次
権田 千里 上村 直子 山崎 正彦
松尾 フジ子 松下 さおり
- 【西都市】黒木 良直 三井 京子 福田 由美
- 【都城市】㈱ヨシダ 朝倉 脩二
- 【延岡市】菅家 幸子
- 【日南市】佐藤 信明
- 【高鍋町】長尾 昭 友草 孝一 友草自動車
蟻塚クリニック
- 【木城町】森 さち子
- 【高原町】森山 雅之 濱野 尋子
- 【福岡市】小林 稔
- 【春日市】白木原 康則
- 【岡山市】佐藤 晃一
- 【東京都】小谷 武 山岡 雪子 小林 敦子
- 【横浜市】浦 初恵
- 【豊川市】和田 鈴子
- 【西宮市】上牧 鐵雄

（奨学金）

- 【西都市】野村 健一
- 【横浜市】加行 尚
- ★ 4/21～5/20の資料館来館者
団体・グループ 0人
個人 13人 合計 13人
ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により
5月20日までのものとしています。

★石井十次瑩域清掃

6月28日（日）午前8時～（十次墓地）
ご協力お願いします。草刈機、剪定ハサミ等
準備できる方はご持参ください。

★7月号の通信発送作業

7月13日（月）9時から印刷・製本
14日（火）9時から製本・発送

●おいしい十次茶はいかがですか

写真は5月上旬の茶臼原の風景です。十次が子ども達と開拓した台地は、現在、茶畑になっています。この日は、高鍋町の「九茶」の人達が、新茶の摘み取り作業を行っていました。



「九茶」の前身は、昭和7年に柿原政一郎氏が開業した「柿原茶舗」です。柿原氏の母親が十次のいとこであったことから、少年の頃から十次とは身近に接する間柄でした。

柿原氏は岡山で中国民報社の社長を務めていましたが、十次の没後、石井記念協会（現石井記念友愛社）から製茶事業へのサポートを切望され、茶商としての第一歩を踏み出しました。

この茶臼原の台地で育った「十次茶」は友愛園の中にある方舟館で購入できます。また西都市のふるさと納税返礼品にも選定されています。ぜひ一度ご賞味ください。



【十次茶】

製造 ㈱九茶農場
100g1,000円

※編集後記

たくさんのご寄付を頂きました。皆様方の温かいご支援に、あらためて心より厚く御礼申し上げます。（文責 成合）

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

〒884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1

後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@ki.jo.jp